



《23名の盛会だった総会 報告》

日 時：6月28日（土）午後3：00～

会 場：「桜はなび」（金沢市本町）

総 会： 議案は当日提示、承認

講 演： 前会長 蛭子政喜氏「敦賀」

6月28日（土）金沢龍馬會総会が開催されました。参加者は山田/不破/蛭子/中田/佐藤/守山/大坪/吉田/紐野/中城/松岡/朝日/周藤/小幡/池田/加藤/堀野/松下/川端/森川/野崎 会友岡田/金原 計23名でした。

一、総会

山田会長が議長となり議事進行を行い全ての議案を審議し承認を受けました。

二、ミニ講演会

前会長 蛭子政喜氏「敦賀」

テーマ：「つるが鉄道と港のあゆみ」

① 敦賀のまちができたから戦国時代

1. 元々は天然の良港として大陸と結ぶ交通の要所縄文時代の後期から人が住んだ（6千年前）。古墳が多い。
2. 日本書紀にも名前がある。10代垂仁天皇の時代に朝鮮から来訪の都怒我阿羅斯等（つぬがあらしと）という渡来人が当地を治め、その発音から713年に敦賀という漢字となったと云われている。そして自然の良港として発展してきた。大陸との交流で栄えた。松原客館という迎賓館もあった。使節はそこから奈良や京都へ上った。
3. 原産が多く大手企業は東洋紡績である。
4. 日本三大松原の気比の松原がある。氣比神宮と云う北陸総鎮守で新潟の佐渡までカバーする。大鳥居は佐渡の木材である。
5. 南北朝時代は金ヶ崎城が戦場であった。斯波氏が国司、その後朝倉氏、そして大谷吉継、結城秀康、酒井忠勝が順次当地を支配した。
6. 南朝時代は足利尊氏派と南朝の良経親王の戦いで南朝が負けたので金ヶ崎神宮に祀られている。天皇家以外の関係者は別の場所で祀られている。その後 朝倉氏の配下に入る。

②、戦国から江戸時代、および龍馬が行き来した時代

1. 戦国期末期、朝倉氏は信長と対峙。信長側には家康、光秀、秀吉が参加していた。ところが近江の浅井長政が朝倉側に寝返った為妻である市が信長に小豆袋で知らせ信長が撤退した。秀吉が殿（しんがり）を勤めた、金ヶ崎の戦いとして有名。



名。三年後に浅井朝倉連合軍と信長家康連合軍が姉川で戦う。それから信長が天下統一に拍車がかかる。

2. 氣比神宮は燃やされ何も残らなかった。関ヶ原決戦の時、石田三成派の大谷吉継が敦賀城主あった。その後家康の天下

となり敦賀は越前の配下に入った。一国一城で城はなかった。そして敦賀は

北前船で栄えた。

3. 幕末となり龍馬はしばしば越前へ旅した。京都→草津→木之本→鳥居→柘の木峠→今庄→福井と5日間かかる。帰りは敦賀の山側を経由し木ノ芽峠を経由した。風邪をひき体調が悪い中で襲われ死亡した。
4. 天狗党は敦賀で町民に暖かくしてもらったが、幕府に渡されたとたん練倉庫に放り入れられ、打ち首となった。墓は敦賀にある、首謀者は武田耕雲斎、墓には渋沢栄一も金を出している。
5. 慶応3年、イギリスのパークス公使が各地を視察した。目的は鉄道計画。
3. 明治となり鉄道が新橋＝神戸を敷設されたが敦賀も絡んでいた明治2年御前会議で鉄道建設方針が決定される。東京＝京都を幹線とする。具体的には新橋＝横浜、明治10年京都＝大阪＝神戸開通。その他京都から船で渡り長浜＝敦賀、これは明治15年に一部が開通。つまり敦賀は日本海側で最初に鉄道が通った場所で明治17年に開通した。明治22年東海道線新橋＝神戸が全線開通。湖上路線は中止となり敦賀は長浜・米原経由となった。明治29年敦賀＝福井、明治32年敦賀＝富山が開通。ちなみに大正2年に米原＝直江津が通った。
2. 明治45年新橋から敦賀金ヶ崎港まで直通列車ができた。そしてウラジオストックまで定期船で渡り、シベリア鉄道にてヨーロッパへ行った。93百キロ、東亜連絡船。二葉亭四迷、与謝野晶子などがこのルートで訪欧し17日間かかった、費用は6百円（現在の15～6百万円）。船だと横浜からスエズ運河で49日間、つまり敦賀経由が速かった。
3. 敦賀は鉄道と港の街。難民問題昭和15年ユダヤ人を受け入れた。杉原千畝が6千人を救った。その20年前にポーランドという国がなくなり政治犯の孤児などがシベリア鉄道経由763名受け入れた。東京・大阪へ送り、その後祖国へ戻った。敦賀は人道の港と言われた。市民は温かく迎えた。
4. 今は新幹線の終着駅として有名。皆様に配った「つるが鉄道と港のあゆみ」は参考資料。（添付なし）

三、親睦会

会員守山氏のご厚意で乾杯ビール、前菜、焼き肉、揚げ物などを供されました。

また同氏より土佐日本酒「南」を差し入れていただきました。また以前初代会長武内氏より寄贈の高知ダバダ火振「栗焼酎」をいただきましたが、今回上戸間で試飲しました。都合日本酒 5 本、ワイン 3 本、焼酎 2 本をいただきありがとうございます。

親睦会は細野県議の乾杯の音頭ではじまり、不破県議の中締めで終了しましたが、前半と後半に分け有志から発言がありました。前半は松岡/松下/堀野/加藤、後半は森川/野崎/岡田/中田/周藤でした。その発言は歴史探訪、時事解説、健康問題、宣伝などでした。

二次会は森川氏主宰の「お龍」にて行われました。

《北陸三県龍馬会交流会》

日時：9月27日(土) 17:00~20:00

場所：「招龍亭」(金沢市西念3丁目5-35)

講演 金沢市玉川図書館

近世史料館学芸員 宮下和幸氏

「加賀藩の幕末・明治」

会費：7.5 千円

なお同日午後は卯辰山周辺でエクスカージョンを行います

《第 37 回龍馬 world 東アジア大会》 ～バンコク & 高知 同時開催～

日時：11月22日(土曜日)

バンコク開催：大会・親睦会共に未定

高知開催：高知県立県民文化ホールオレンジ

(高知市本町4丁目3-30) ほか

お問い合わせ：(公社)高知市観光協会

Tel 088-823-4016

詳細は下記(一社)全国龍馬社中ホームページをご覧ください。
<https://zenkoku-ryoma-shachu.com/category/ryoma-world/>

志士たちが活躍した長崎とは ②⑥

横井 小楠

長崎と直接関係がないが、幕末の志士に影響を与えた人物として横井小楠を忘れてはいけない。

嘉永6年(1853)萩の松下村塾にて幕末・明治の英雄たちを教育した吉田松陰先生は長崎に寄港していたロシア艦艇に乗ろうとして長崎に向かう途中、横井小楠に面会している。

また龍馬が勝海舟の伴として元治元年(1864)初めて長崎を訪れたとき、途中で熊本にいた小楠を訪れている。

それだけでなく福井でも、同じく熊本でも数回面会し教えを乞い、また議論をしている。

出身の熊本藩ではうまくいかず、福井の松平春嶽に招かれ政治顧問となった。維新後は新政府の参与となった。そして残念なことに攘夷派によって暗殺された。

文化6年(1809)熊本城下で熊本藩士の次男として誕生、8歳で藩校に入り、天保8年(1837)塾長となった。

その後江戸に遊学し林檎宇の門下となり、尊皇攘夷のカリスマである水戸藩士の藤田東湖たちと親交を結んだ。

安政2年(1855)農村に転居し四時軒と名付けたが、ここに幕末の志士や維新以降の中心人物が訪れている。福井藩主松平春嶽が小楠を招聘し安政6年(1859)実現した。その後、諸事情で熊本と福井の間を行き来しており江戸にも足を延ばし幕府の大物である勝海舟などと交流を持っている。

文久2年(1862)には福井藩から4回目の招きを受

け江戸の越前藩邸に赴き春嶽の助言者として幕府改革に関わり「国是七条」を起草した。幕府上層部や徳川慶喜にも意見を述べている。

その頃龍馬とも江戸で再会している。同時期に刺客に襲われている。熊本藩からは同席者が死んでいるのに小楠は逃げたと云われ、昔から酒癖が悪いとの評判もあり、評価が低かった。小楠は土席差放で浪人となった。

四時軒で塾居となり、下記に記す「拳藩上洛計画」(幕政改革や攘夷対策のため、諸藩を挙げて上洛し、将軍・関白・草莽志士らと直接協議をするという越前藩の構想)は頓挫した。小楠の思想は実践的朱子学で「実学」と云われている。つまり朱子学の教理を形式的な学問にとどめず、社会改革や国家経営に直結させようとした実用志向の学問姿勢を指す。そして朱子学の実践化、富国強兵・殖産興業への関心、開国と国際的視野、政治改革と「公議世論」、人材育成と後の「富国強兵」や「文明開化」に先行する近代日本の発想がここに萌芽している。

以前、何かの資料を見たとき、小楠は金沢に来て加賀藩と接触したが、実学という点で加賀藩は小楠の「お眼鏡にかなわなかった」とのこと。

しかし Chat GPT によると具体的資料では金沢に来たという記録はなく、京都にて加賀藩の在京責任者、例えば家老である松平大弐(その後、禁門の変にからみ当時若様であった前田慶寧が長州藩と内通しているとの疑いを受け、その尻ぬぐいで自刃した)などと「拳藩上洛計画」などで話し合った記録がある。この構想は加賀藩、熊本藩、薩摩藩にも呼びかけられた。参照：ウキペディア、ChatGPT、他

熊本高松公園、真ん中が小楠、左が龍馬と海舟、右が松平春嶽と細川護久



【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお願いします。心の中に常“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第45号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局 *****

金沢龍馬会

会 長：山田友一

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

